



広島中央トピックス

展示会にぎわう 大和アグリセンター



JA大和アグリセンターとJA共済連広島は6月11、12日の両日、同アグリセンターで「農業と暮らしの応援フェア」を開きました。JAが取り扱う農業資材や生活用品などの幅広い商品やサービスを知らせてもらうと企画しました。

水稲の中期管理講習会と鳥獣害対策の講習会も実施。日頃の感謝を込めて来場者に同市産の米粉をプレゼントし、広島県産のミカンジュースを振る舞いました。会場では玄米保冷庫や仏壇、墓石、ガス



▲ミカンジュースを振る舞う職員

機器、リフォームなどの展示の他、卵詰め放題、水素吸入体験会を行いました。

新規就農者確保へ一歩 夏秋ナス農業塾



JA広島中央地域は、夏秋ナス農業塾を開き、新規就農者の育成を目指しています。また、露地作で高収益が期待できるナスを水稲との複合経営で導入し、生産者の所得向上を目指します。

5、11月に毎月1回開き、3人が受講しています。東広島市園芸センターで開いた初回講座では、品種特性や栽培、販売、消費などの特徴、年間の作業内容を伝えました。同センターの展示圃場では、定植後の生育を確認しました。



▲ナスの栽培を学ぶ参加者

目指している。農業塾で栽培技術を身につけ、来年から本格的な生産・出荷を目指したい」と話します。

地区別総代集会 広島中央地域



JAは6月、各地域で総代集会を開きました。広島中央地域では6月12日に東広島市市民文化センター「アザレアホール」で行い、総代124人とJA役職員が意見を交わしました。

JAは、第3回通常総代会の5議案を説明。組合員からは「支店ふれあい委員会の活動を活発にするための積極的な広報活動やJAの支援強化」などの要望がありました。また、「減損会計について」質問がありました。



▲質問に答える役員

エコキャップ運動 広がる輪



JA女性部広島中央地区本部は、ペットボトルのキャップをリサイクルし、NPO法人を通じて途上国の子どもにワクチンを寄付する「エコキャップ運動」に取り組んでいます。運動は今年で17年目。2025年度は、過去最多の1485kgを集め、742人分のワクチン寄付につなげました。環境保全、社会貢献活動の一環で、一層の展開を目指します。

6月23日にはJA志和アグリセンターで集めたキャップを女性部役員ら13人が仕分けし、規格



▲集めたキャップを仕分けする女性部員

外品や汚れがひどいものなどを取り除きました。



水稲

8月の管理

東広島市周辺では、8月上旬から「あきさかり」「あきるまん」、中旬以降は「ヒノヒカリ」「恋の予感」などが出穂期を迎えます。この時期は稲が籾にデンプンを蓄える「登熟」の始まりであり、品質・収量を決定する最も重要な管理時期です。

近年は猛暑による高温障害や斑点米カメムシ類の被害が増加しています。今年も高温が予想されるため、最後まで適切な管理を行い、高品質・良食味米を目指しましょう。

◆出穂とは？

出穂とは、稲の茎の中で育っていた穂が葉鞘（ようしょう）を突き破って外へ出てくる現象です。出穂の程度でそれぞれ呼び方があります。

①出穂始め（しゅっすいはじめ）

圃場全体の10～20％程度の穂が出た時期

②出穂期（しゅっすいき）

圃場全体の40～50％程度の穂が出た時期

③穂ぞろい期（ほぞろいき）

圃場全体の80％以上穂が出た時期

◆出穂後に起こること

①開花

穂が出ると、晴れた日の午前9～12時頃を中心に花が咲きます。稲の花は非常に短命で、一つの花が開いている時間は1～3時間程度しかありません。

②受粉・受精

稲は自家受粉を行う植物であり、花が開くと同時に花粉が放出され、その場で受粉・受精が行われます。雨天や低温、強風などが続くと受粉が妨げられ、不稔（実が入らない籾）が増えることがあります。

③登熟

受精後は、葉で作られたデンプンが籾へ運ばれ、米粒が大きく充実していきます。登熟期間は品種により異なりますが、約40～50日間あり、この時期の天候や管理が玄米品質を決めます。

◆出穂前後の防除

出穂期の病害虫防除は品質や等級、収量に大きく影響します。出穂期前後2回の防除は、最低限必要な基幹防除なので必ず行いましょう。

天候の影響により2回の基幹防除だけでは病害虫の発生が抑えられない場合もあります。その際は補完的に防除し、品質維持に努めましょう。薬剤散布は、水稻栽培ごよみを参考に、農薬使用前には必ずラベルを確認しましょう。

◆収穫時期（早生品種）

「シヒカリ」で早いものは8月下旬に収穫期を迎えます。刈り取りの時期は現物をよく見て判断してください。籾は刈り取りまで充実を続けることを考えると、早刈りは充実不足によって等級が低下し、収穫量が減少します。

一般的に籾の黄化率85～90％程度が適期ですので、収穫判断は穂を数カ所から切り取り、しごいてその籾を青と黄に分けるのが一番確実です。

近年、「あきさかり」についても高温の影響により8月中旬に収穫期を迎える圃場もあります。刈り遅れると胴割れが多くなるので、黄化率80％くらいから刈り取りを考えましょう。



野菜

8月の野菜栽培管理について

8月の野菜栽培管理では、夏野菜の高温と乾燥の対策(水やり・マルチ・遮光)と病害虫防除、秋冬野菜の種まき準備を同時に進めることが重要です。朝夕にたっぷりかん水し、株元の草刈りと追肥を行いながら、レタス・ハクサイ・ダイコンなど秋冬どり野菜の種まき・育苗を始めましょう。



基本管理ポイント

◆かん水(水やり)

猛暑の時期は、水切れのサインに早く気づくことが大事です。

◆葉に出る主なサイン

①しおれ方の違い

葉や茎がぐったり垂れ、朝夕になっても戻らない状態は、水不足の典型的なサインです。日中だけしおれて夕方にはシャキッと戻る場合は、高温ストレスだけの場合もあります。

野菜の種類によっては、青枯れ病等の発症による事もあります。

②葉色と質感の変化

葉全体がややくすんだ緑になり、ハリがなくペタンと倒れがちになります。さらに進むと、カサカサに乾いて緑から茶色く焦げたようになります。特にキュウリなどは、葉が大きくしおれてきます。

◆土と環境のサイン

①土の乾き方

鉢やプランターでは、表面だけでなく指を差し込んで冷たさや湿り

気がない、鉢がいつもより軽く感じるなどは水切れのサインです。特にコンクリート上のプランターは高温で、急激に乾くので注意が必要です。

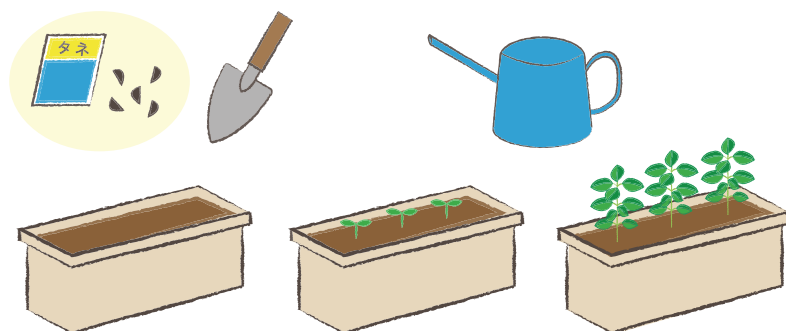
畑等の土壌の場合は、表面だけでなく、指を第二関節くらいまで差し込み、冷たさや湿り気が無ければ水やりを、マルチや敷きわらをしている場合は、乾きが遅いので、見た目だけで毎日やらないよう加湿に注意しましょう。

②生長や実付きの変化

水不足が続くと、新しい葉や芽が出にくくなり、生長が止まったようになります。実も小さいまま太らない、花がボロボロ落ちるといった形で現れることもあります。

③時間帯とやり方

原則は「早朝」か「日没後すぐ」が基本で、日中は土が熱くなり、お湯状態になりやすいので避けましょう。水の量は、「回数」より「1回深く」が基本で、土がしっかり湿るまでかん水します。葉にかけ過ぎると病気になるやすいので注意しましょう。



サツマイモ定植 大和小学校3年生

大和小学校3年生21人は、J A大和アグリセンターの協力を得ながらサツマイモの栽培に取り組んでいます。

5月下旬には同校の畑で「鳴門金時」100本を定植。掘った穴に、手で苗を植えました。6月4日には、大和町の田坂さんの畑で「シルクスイート」を150本定植。苗挿し棒を使って、マルチの上から苗を土の中に植えました。

中通律くんは「棒を使うやり方だと簡単に、上手に植えることができた」と喜びました。



▲田坂さんに教わりながらサツマイモの苗を植える児童

自然農法の米作り体験 造賀小学校田植え

造賀小学校5、6年生15人は6月19日、地域の人やJ A高屋アグリセンターの協力を得ながら同校の田んぼ4aで田植えをしました。

品種は「ヒメノモチ」。苗は、同町の門藤浩矢さんがポットで育苗しました。ポット育苗は、根が隣同士で絡まず苗一本一本が力強く育つ特長があります。田植え後は、アイガモを田んぼに放飼して除草効果や害虫防除が期待できるアイガモ農法で育てます。

10月に稲刈りをし、12月には杵と臼を使った餅つき体験を計画しています。



▲田植えを体験する児童

Information お知らせ

広島中央地域 アグリセンター 休日営業のお知らせ

秋の農繁期に次の期間、休日営業を実施します。

【農繁期休日営業 実施期間】
8月22日(土)～10月25日(日)

【営業時間】
午前8時30分～午後5時

広島中央地域 営農情報 LINE@友だち募集中!

友だち登録方法

- ①右のQRコードを読み取って登録
- ②ID検索から
下のIDを入力して登録

LINE ID @380qsxur

©ここまる



東広島市
園芸センターより

新規就農者育成総合対策事業のご紹介

新規就農を検討されている方を対象とした国の支援策です。

経営発展支援事業

次世代を担う農業者となることを志向する方に、就農直後の経営発展のために必要な機械・施設の導入等の取り組みを支援する制度です。

【主な交付対象者の条件】

- ・就農時45歳以下
- ・認定新規就農者
- ・独立自営就農
- ・その他

【補助率・限度額等】

- ・補助限度額 1,000万円
- ・補助率 最大で国1/2、県1/4 (※その他条件あり)

経営開始資金

次世代を担う農業者となることを志向する方に、就農直後の経営確立に資する経営開始資金を交付する制度です。

【主な交付対象者の条件】

- ・就農時45歳以下
- ・認定新規就農者
- ・独立自営就農
- ・その他 (農地取得など)

【補助率・限度額等】

- ・補助率 10/10
- ・支援額 年間165万円
- ・交付期間 最長3年間

※条件によっては申請できない場合があります。
※要件を満たせば必ず採択されるものではありません。

※予算の範囲内において、計画の審査等により採択されます。
※農林水産省のホームページで詳細(主な交付対象者の条件、補助率・限度額、その他)をご確認いただき、園芸センターまでお問い合わせください。

申込・お問い合わせ

東広島市園芸センター Tel (082)433-4411

